

手話との出会いは人生の宝物

森川 美恵子さん (上三谷)

森川さんと手話との出会いは、30年前。アルバイトをしていた店にやって来たお客さんが手話で会話をするところを見て、衝撃を受けました。「手で話ができるなんてすごい。なんて楽しそうなんだろう！」声をかけ、すぐに手話サークルに入会。1か月後、サークルで知り合った縁で、森川さんは、全員聞こえない人が働く会社で働くことになりました。「初日は、手話で交わされる会話の内容がわからず、集団の中の孤独を感じ、辞めようと思いました。でも、その状況は、普段聞こえない人たちが体験している世界なんだと気付いたとき、辞めるわけにはいかないと思い直しました。」この会社で、わから

ない中でも何とか手話で伝えようと表現の工夫をするようになったことが、今でも役立っているそうです。以来、子育ての時期もありましたが、手話から離れることはなく、現在は、松山市の社会福祉事業団で手話生活相談員として、手話通訳の派遣コーディネイトや通訳者養成講座の企画など、手話に関するあらゆる相談を受けています。全国手話通訳問題研究会愛媛県支部の副支部長も務め、平成元年に開設された難関の手話通訳士試験にも4度目のチャレンジで合格。愛媛では初の資格者となりました。

「手話通訳は、一語一語を訳すのではなく全体の意味を訳す意識です。一番気を付けるのは、自分のものさしで物事をはからないこと。『ありがとう』にも『助かったよ』とか『うれしかった』という意味があるように、

一つの言葉にもいろいろな感情がありますから、常に「なぜこの人はこう言ったのか」その真意を考え、瞬時に一番合う手話で通訳します。正確な通訳をするためには、日本語と手話の両方で多くの表現方法を持つことが欠かせません。日々勉強です。」

それまで聞こえなかった人が手話を身に付けて心を開き、明るい表情になる。手話通訳をする中で、森川さんは、そんな素敵な変化を何度でも間近で見えてきました。「人はいつでも成長できる。そう確信しました。手話を通じて知り合った全国の聞こえない人たちは皆、私の師匠。出会った体験すべてが宝物なんです。」

人と会って、話をするのが大好き。新しい出会いと、手話のさらなる定着をめざし、仕事の傍ら全国各地へ講演や指導へ飛び回ります。今年1月には、ニューヨークで開かれた国連会議で手話通訳を務めました。そこで、世界各国の人が「国際手話(手話の共通語)」で話す姿を見て、「私もあの話を理解したい!」と興味を感じ、国際手話を学ぶという新たな目標を得ました。そんな森川さんには大きな夢があります。「私の人生でいろんなことを教えてくれた聞こえない人たちがもっと暮らしやすい社会になって欲しい。そして、手話で仕事が増えるという若い世代の働く場所が増えることを願っています。」

厳しい現実には負けず、夢に向かって笑顔で活動が続けます。



▲今年1月に開催された障害者の権利条約に関する国連会議で、手話通訳をする森川さん。
【ニューヨーク国連本部】